

皆様おはようございます。

ついこの間まで連日30度越えであんなに暑い暑いとエアコンをつけていたのに、あっという間に季節が進んだように思います。最高気温が20度を下回り、最低気温が一桁という日もあります。どうぞ皆様体調にはお気を付けください。

ヤコブ書も3章に入りました。

このヤコブ書は、本当の、生ける信仰、生き生きと私たちの内に働いて、人生に救いの実りを与えるためにはどのような信仰であるべきなのかを私たちに教えます。今日も期待しつつ読み進めてまいりましょう。

1 わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち多くの者は、教師にならないがよい。わたしたち教師が、他の人たちよりも、もっときびしいさばきを受けることが、よくわかっているからである。

1節を読みますと、私としましては、実に畏れ多い、心が震える思いがいたします。教師に対して戒めと自戒とを促す言葉です。

2 わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである。もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。

言葉で失敗するということを私たちは自分で体験したり、見聞きしたりするのではないのでしょうか。言葉というものは一回口から外に出たらそれを戻すことが出来ません。手紙の言葉であれば、何度も何度も書き直して出すことが出来ますが、言葉に対しては、言い直したとしても、前の言葉を取り戻すことは出来ません。私たちは多くの過ちを犯すのですが、殊の外油断して過ちを犯してしまう、油断しやすい過ちは、口から出る言葉であり、言葉は、私たちが四十とめどなく語るものですが、時においては、その何気ない言葉が相手の心に刺さって大きな痛手を負わせるということもあるのではないのでしょうか。言葉は表現の誤りを犯す、言い間違いであることもあれば、私たちの本音を如実に現すものでもあり得ます。ふとしたその言葉に、その人の本性が現れることもあります。ですから、言葉を制する者は、心を制するものであり、あらゆる体全体で失敗を犯すこと全てを成業できる完全な人という事が出来るのです。

3 馬を御するために、その口にくつわをはめるなら、その全身を引きまわすことができる。

4 また船を見るがよい。船体が非常に大きく、また激しい風に吹きまわられても、ごく小さなかじ一つで、操縦者の思いのままに運転される。

5 それと同じく、舌は小さな器官ではあるが、よく大言壮語する。見よ、ごく小さな火でも、非常に大きな森を燃やすではないか。

6 舌は火である。不義の世界である。舌は、わたしたちの器官の一つとしてそなえられたものであるが、全身を汚し、生存の車輪を燃やし、自らは地獄の火で焼かれる。

力強い馬を御するためには小さな口のくつわ、大きな船を操縦するにも、何人もの力が必要なわけではなくて、船体が非常に大きくても、激しい風に吹きまわられても、ひとりの人が舵を取れば充分であるように、それと同じように、人のすべては舌によって定められると書いてあります。

ごく小さな火でも、マッチ一本からでも東京ドームを何個分も燃やす山火事に発展しうるものであり、人の力では鎮火もお手上げというような事態に陥るように、私たちの舌が、時によっては失言により、人生を狂わせることになるわけで、それを6節ではこう言っています。

6 舌は火である。不義の世界である。舌は、わたしたちの器官の一つとしてそなえられたものであるが、全身を汚し、生存の車輪を燃やし、自らは地獄の火で焼かれる。

このように舌は火であり、不義の世界であり、小さな小さな一言の失言であっても、生存の車輪、人生の車輪を燃やして人生を立ち行かないようにさせる大変な災いをもたらす体の器官となってしまう、その結果として地獄の火によって焼かれ行く全身を汚す器官であると記されてあります。

7 あらゆる種類の獣、鳥、這うもの、海の生物は、すべて人類に制せられるし、また制せられてきた。

8 ところが、舌を制しうる人は、ひとりもない。それは、制しにくい悪であって、死の毒に満ちている。

人間は神様のご意思により、自然界のすべての生き物を名付け、治めるようにと定められました。そのように自然界をコントロールするという大きな権威を与えられながら、人は自分の舌一つ収め、制し、コントロールすることが出来ない。舌は制しにくい悪であり、死の毒に満ちていて、悪しき事を語らせ、人の人生をむしばみ、地獄の火にさらされる危険に導くと聖書は語ります。

ここで皆様も疑問に思われると思うのですが、聖書では「舌」がずっと悪く言われていますが、舌自体が勝手に悪しきこと、人を害することや傷つけることを話すのではないということです。確かに舌で、言葉で失敗したなあと頭を欠く人たちを私たちは見聞きします。あの時あの言葉さえ一言言わなければと、自分の口をぴしゃりと叩く人がいるかもしれません。しかし舌はそれ自体では一言も話すことはありません。心の中に浮かぶことが舌を通して言葉になるのです。

マタイ 15:8 『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。

15:9 人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる』。

15:10 それからイエスは群衆を呼び寄せて言われた、「聞いて悟るがよい。

15:11 口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである」。

15:12 そのとき、弟子たちが近寄ってきてイエスに言った、「パリサイ人たちが御言を聞いてつまずいたことを、ご存じですか」。

15:13 イエスは答えて言われた、「わたしの天の父がお植えにならなかったものは、みな抜き取られるであろう。

15:14 彼らをそのままにしておけ。彼らは盲人を手引きする盲人である。もし盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むであろう」。

15:15 ペテロが答えて言った、「その譬を説明してください」。

15:16 イエスは言われた、「あなたがたも、まだわからないのか。

15:17 口にはいつてくるものは、みな腹の中にはいり、そして、外に出て行くことを知らないのか。

15:18 しかし、口から出て行くものは、心の中から出てくるのであって、それが人を汚すのである。

15:19 というのは、悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心の中から出てくるのであって、

15:20 これらのものが人を汚すのである。しかし、洗わない手で食事することは、人を汚すのではない」。

ヤコブ書は本当に、私たちの心の中を探る言葉に満ちています。信じるとはどういうことか。本当の信仰とはどういうものか。

9 わたしたちは、この舌で父なる主をさんびし、また、その同じ舌で、神にかたどって造られた人間をのろっている。

10 同じ口から、さんびとのろいとが出て来る。わたしの兄弟たちよ。このような事は、あ

るべきでない。

11 泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴からふき出すことがあろうか。

12 わたしの兄弟たちよ。いちじくの木がオリーブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができようか。塩水も、甘い水を出すことはできない。

聖書は実に、外側に出てくる言葉だけを問題にしているわけではありません。その外側の言葉を作り出す心のうちの問題性に目を留めます。そこは不義の世界であり、私たちの悪しき心が、全身を汚し、生存の車輪を燃やし、自らは地獄の火で焼かれることとなるのです。

片や神様をほめたたえる言葉が心の中から出て来る。しかし片や兄弟たちを呪う言葉が出て来るのです。このような泉は見出すことが出来ません。いちじくの木がオリーブをなせたり、ぶどうの木がいちじくの実をなせたりすることはありません。しかし私たちの心は神様をあがめもし、同じ心の中で兄弟を憎み、呪うことすらあるのです。

マタイ 5:18 よく言うておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。

5:19 それだから、これらの最も小さいいましめの一つでも破り、またそうするように人に教えたりする者は、天国で最も小さい者と呼ばれるであろう。しかし、これをおこないまたそう教える者は、天国で大いなる者と呼ばれるであろう。

5:20 わたしは言うておく。あなたがたの義が律法学者やパリサイ人の義にまさっていなければ、決して天国に、はいることはできない。

5:21 昔の人々に『殺すな。殺す者は裁判を受けねばならない』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。兄弟にむかって愚か者と言う者は、議会に引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。

私たちはそのような不義の世界を持っており、制しにくい悪、死の毒に満ちている心を持っているのです。これが人の罪の問題です。この罪の問題により、心が毒され、舌が毒されて不義の世界、いじめの世界、戦いの世界、奪い合う世界が作られています。

この不義の、制しにくい、毒に満たされた心を制するために、私たちの主イエス・キリストが十字架にかかって身代わりの死を遂げて下さいました。イエス様は世の罪を取り除く神の小羊となって下さいました。そして神の供え物は、その血潮は私たちをきよめるのです。

1 ヨハネ 1:1 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て手で

さわったもの、すなわち、いのちの言について――

1:2 このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである――

1:3 すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。

1:4 これを書きおくるのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるためである。

1:5 わたしたちがイエスから聞いて、あなたがたに伝えるおとずれは、こうである。神は光であって、神には少しの暗いところもない。

1:6 神と交わりをしていると言いながら、もし、やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を行っているのではない。

1:7 しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。

1:8 もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにはない。

1:9 もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

1:10 もし、罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであって、神の言はわたしたちのうちにはない。

そうです、私たちはキリスト・イエスの贖いにより、きよめられています。全身が明るくなるためです。

マタイ 6:22 目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろう。

6:23 しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう。

2 コリント 5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

5:18 しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。

5:19 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。

私たちは心の一新により、新たな人生にスタートさせていただいたのです。この恵みを最大限に用いて、新しくされたものとして、聖霊により、祝された人生の車輪により、愛と力に満ちた生涯を送らせていただきたいと思います。

ローマ 12:1 兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。

12:2 あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。いつも私たちに、生き生きとした信仰、命にあふれる信仰、私たちを救い得る、本当の信仰をお教えくださいます。ありがとうございます。確かに私たちの心の中にはあふれる悪が存在し、ごく小さなことをきっかけに私たちの人生を狂わすことがあります。しかしあなたは私たちに心の一新を与えて下さいます。心の底からのきよめをもって、私たちを命の力あふれる愛の人と作り変えて下さいました。神様の御子イエス様による贖いと救いに感謝いたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン